

平成24年度特別支援学校における医療的ケア運営協議会 第2回協議の要旨(報告)

実施日 平成25年2月12日(火)

特別支援教育課

1 第1回運営協議会の継続課題について

(1) 特別支援学校における児童生徒の医療的ケアに係るリーフレットについて

- 事務局が第1回の協議内容をふまえ、「特別支援学校における児童生徒の医療的ケアに係るリーフレット(案)」を提示し、これらを基に協議する。
- ・医療的ケアQ&Aに人工呼吸器の保護者付き添いの件が付け加えられているので、それを持って保護者への理解を図ることができるのではないかと。
- ・使う側としては、このリーフレットは整理されており、これでよいと思う。
- ・このリーフレットが改定されて、これが2枚目となる。今後3枚目が出てくることもあると思うが、その過程をこれから入学する保護者がどこかで参照できるとよい。
- ・人工呼吸器の使用については、夜間だけ使用して、昼間は外している方もいる。筋疾患の方で、夜眠っているときだけ、バイパップをつけているかたもいる。文書にはなりにくい様々なケースがある。今後のリーフレット改訂とともに、検討していければよいと思う。

(2) 看護師確保の方策について

- 事務局が第1回の協議内容をふまえ、「看護師確保の方策(案)」を提示し、これらを基に協議する。
- ・勤務可能地域の部分が視覚的にわかるようになってきているとよい。
- ・看護協会のホームページを積極的に御活用いただきたい。
- ・看護師の不安を軽くするための研修の充実も併せて考えたい。

2 ヒヤリハット報告について

(1) 個々の報告事例について

- ・食事介助については、食事カルテを年度ごとに作成し、食形態についても医師や言語聴覚士と確認をしているが、今回のようなむせも見られる。食事介助については、医療的ケアを行うよりも気を使う場合がある。

また、最近、胃ろうからの手押し注入をする児童生徒が増えている。その中で、経口摂取を併せて希望するようなケースも出てきている。

このように、現場で看護師が判断して動かなくてはならないことが増えてきている。この事例の児童は、医療的ケアの子どもたちが在籍しているクラスではなく、別のクラスの児童であり、このときには、看護師が吸引器を持って走っていった。

呼吸の問題となると、1分1秒を争うので、とても苦労している。こういうことが他の学校でも起きる可能性があると思う。とても不安に感じる。

- ・緊急時であったので、その児童生徒に合ったアンビューバックがなく、別のものを何とか工夫して使ったが、一人ひとりのアンビューバックが必要である。酸素を使いたくても酸素の指示が出ていないということもある。

- ・ヒヤリハットは、インシデントアクシデントという表現に変わってきている。

(2) 緊急時対応について

- ・緊急時対応について、個々のケースに合わせて各学校でマニュアルを作成している現状である。
- ・緊急時対応については、酸素の必要性、気道確保の必要性など、チェックリストにしておいたほうが、医師にとっては、対応しやすいのではないか。
- ・文言で簡単に書いてしまうと、対応に誤解も生じやすい、緊急時対応マニュアルをきちんと作成することが大事なのではないか。
- ・チェックリストにすると、ケースによっては、必要な対応が漏れることもあるのではないか。
- ・緊急時対応マニュアルはそれぞれの特別支援学校で個別に作成しなくてはならない。例えば、気道確保が必要か、酸素が必要かなどのチェックリストを参考として、具体的には、個別のマニュアルに記入する。もし、酸素が必要な場合には、その特別支援学校で酸素をどのように保持するか、そのような問題が出てくる。中には、教育委員会で考えなくてはならない部分も出てくる。
- ・この点については、次年度の課題としていく。

3 その他

- ・人工呼吸器をつけた来入児も、今後増えてくる。重度重複障害のある児童生徒の成長は、経験を積んだ教員ならば分かるが、1年やそれくらいの経験では、分かりにくい。また、この制度自体を新しく小中学校から来た養護教諭が理解するのも、1年間では無理である。新しいことが増えていくことには不安がある。
- ・学校看護師が判断しなければいけないことに対して、対応しやすいシステムを作っていたほうがよい。平成25年度以降の対応として、緊急時の対応を医療的ケアの内容に応じて、整えていったほうがよい。
- ・法的な根拠ができたということは責任も重くなる。そのことを考えた対応を次年度以降、考えておかないといけないと思う。